

果樹をめぐる情勢

令和7年11月
農林水産省



果樹の品目	2
果実の需給構造	4
果樹の生産動向	6
果樹の経営動向	13
果実の流通動向	17
果実加工品の動向	18
果実の消費動向	19
果実の卸売価格の推移	22
果実の輸出状況	24
果実の輸入状況	26
果樹研究の推進	27
地球温暖化の影響と対策	30
果樹の高温被害の状況	31
果樹農業振興基本方針（令和7年4月30日）	32
果樹支援対策	33
（参考①）果樹経営支援対策事業の実施状況	42
（参考②）果樹経営安定対策について	43
（参考③）都道府県別果実産出額	44
（参考④）都道府県ごとの果樹の振興品目（果樹農業振興計画）	45

果樹の品目①（主産地）

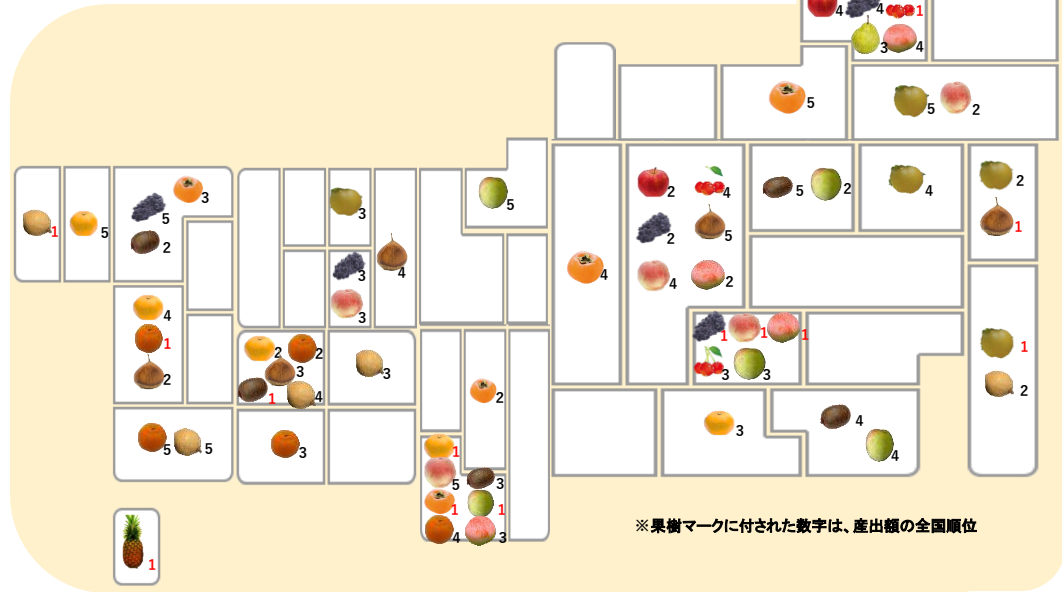
政令指定果樹の品目別 都道府県別 産出額ベスト5

ぶどう	都道府県	産出額(作付面積)
	1 山梨県	533億円(4,050ha)
	2 長野県	492億円(2,780ha)
	3 岡山県	221億円(1,240ha)
	4 山形県	139億円(1,460ha)
	5 福岡県	99億円(676ha)

みかん	都道府県	産出額(作付面積)
	1 和歌山県	335億円(7,110ha)
	2 愛媛県	272億円(5,290ha)
	3 静岡県	262億円(5,210ha)
	4 熊本県	191億円(3,630ha)
	5 佐賀県	139億円(1,900ha)

りんご	都道府県	産出額(作付面積)
	1 青森県	1,033億円(20,200ha)
	2 長野県	339億円(6,930ha)
	3 岩手県	104億円(2,280ha)
	4 山形県	89億円(2,060ha)
	5 秋田県	50億円(1,170ha)

その他かんきつ	都道府県	産出額(作付面積)
	*1 熊本県	107億円(2,230ha)
	2 愛媛県	101億円(7,140ha)
	3 高知県	88億円(1,660ha)
	4 和歌山県	71億円(2,150ha)
	5 鹿児島県	65億円(1,890ha)



※果樹マークに付された数字は、産出額の全国順位

なし	都道府県	産出額(作付面積)
	1 千葉県	81億円(1,300ha)
	2 茨城県	71億円(855ha)
	3 山形県	65億円(925ha)
	4 鳥取県	56億円(573ha)
	5 栃木県	53億円(710ha)

もも	都道府県	産出額(作付面積)
	1 山梨県	214億円(3,330ha)
	2 福島県	154億円(1,760ha)
	3 岡山県	55億円(669ha)
	4 長野県	54億円(923ha)
	5 和歌山県	52億円(706ha)

おうとう	都道府県	産出額(作付面積)
	1 山形県	378億円(2,880ha)
	2 北海道	28億円(533ha)
	3 山梨県	20億円(325ha)
	4 長野県*2	15億円(96ha)
	5 青森県	12億円(92ha)

かき	都道府県	産出額(作付面積)
	1 和歌山県	107億円(2,490ha)
	2 奈良県	65億円(1,780ha)
	3 福岡県	41億円(1,110ha)
	4 岐阜県	35億円(1,210ha)
	5 新潟県	23億円(629ha)

うめ	都道府県	産出額(作付面積)
	1 和歌山県	143億円(5,270ha)
	2 群馬県	18億円(847ha)
	3 山梨県	6億円(354ha)
	4 神奈川県	6億円(312ha)
	5 福井県	6億円(462ha)

くり	都道府県	産出額(作付面積)
	1 茨城県	26億円(3,120ha)
	2 熊本県	21億円(2,370ha)
	3 愛媛県	13億円(1,910ha)
	4 兵庫県	7億円(509ha)
	5 長野県	6億円(238ha)

キウイフルーツ	都道府県	産出額(作付面積)
	1 愛媛県	22億円(393ha)
	2 福岡県	21億円(277ha)
	3 和歌山県	17億円(168ha)
	4 神奈川県	6億円(119ha)
	5 群馬県	4億円(73ha)

すもも	都道府県	産出額(作付面積)
	1 山梨県	35億円(846ha)
	2 長野県	15億円(329ha)
	3 和歌山県	11億円(273ha)
	4 山形県	8億円(253ha)
	5 北海道	5億円(152ha)

びわ	都道府県	産出額(作付面積)
	1 長崎県	9億円(280ha)
	2 千葉県	7億円(126ha)
	3 香川県	2億円(57ha)
	4 愛媛県	2億円(50ha)
	5 鹿児島県	2億円(76ha)

パインアップル	都道府県	産出額(作付面積)
	1 沖縄県	20億円(590ha)
	2 -	-
	3 -	-
	4 -	-
	5 -	-

資料：農林水産省「令和5年生産農業所得統計」、「令和5年耕地及び作付面積統計」

*1「その他かんきつ」は、しらぬい、ゆず、ブンタン、ポンカン、なつみかん、いよかん、はっさく、日向夏、清見、カボス、きんかん、すだち、たんかん、ネーブルオレンジ、セミノール

*2 長野県のおうとう作付面積については「令和2年耕地及び作付面積統計」の数値

果樹の品目②（品目別ランキング（令和４年））

品 目	栽 培 面 積		生 産 量		生 産 額	
	(ha)	順位	(t)	順位	(億円)	順位
みかん	38,100	1	682,200	2	1,557	3
りんご	36,300	2	737,100	1	1,680	2
かき	18,300	3	216,100	3	427	7
ぶどう	17,700	4	162,600	5	1,925	1
くり	16,800	5	15,600	18	122	10
うめ	14,200	6	96,600	7	290	8
日本なし	10,400	7	196,500	4	683	5
もも	9,990	8	116,900	6	684	4
おうとう	4,540	9	16,100	17	471	6
すもも	2,810	10	18,800	14	103	11
しらぬい（デコポン）	2,377	11	34,994	8	177	9
ゆず	2,195	12	18,131	16	60	16
キウイフルーツ	2,030	13	22,900	12	101	12
いよかん	1,583	14	21,002	13	38	20
西洋なし	1,440	15	26,700	10	91	13

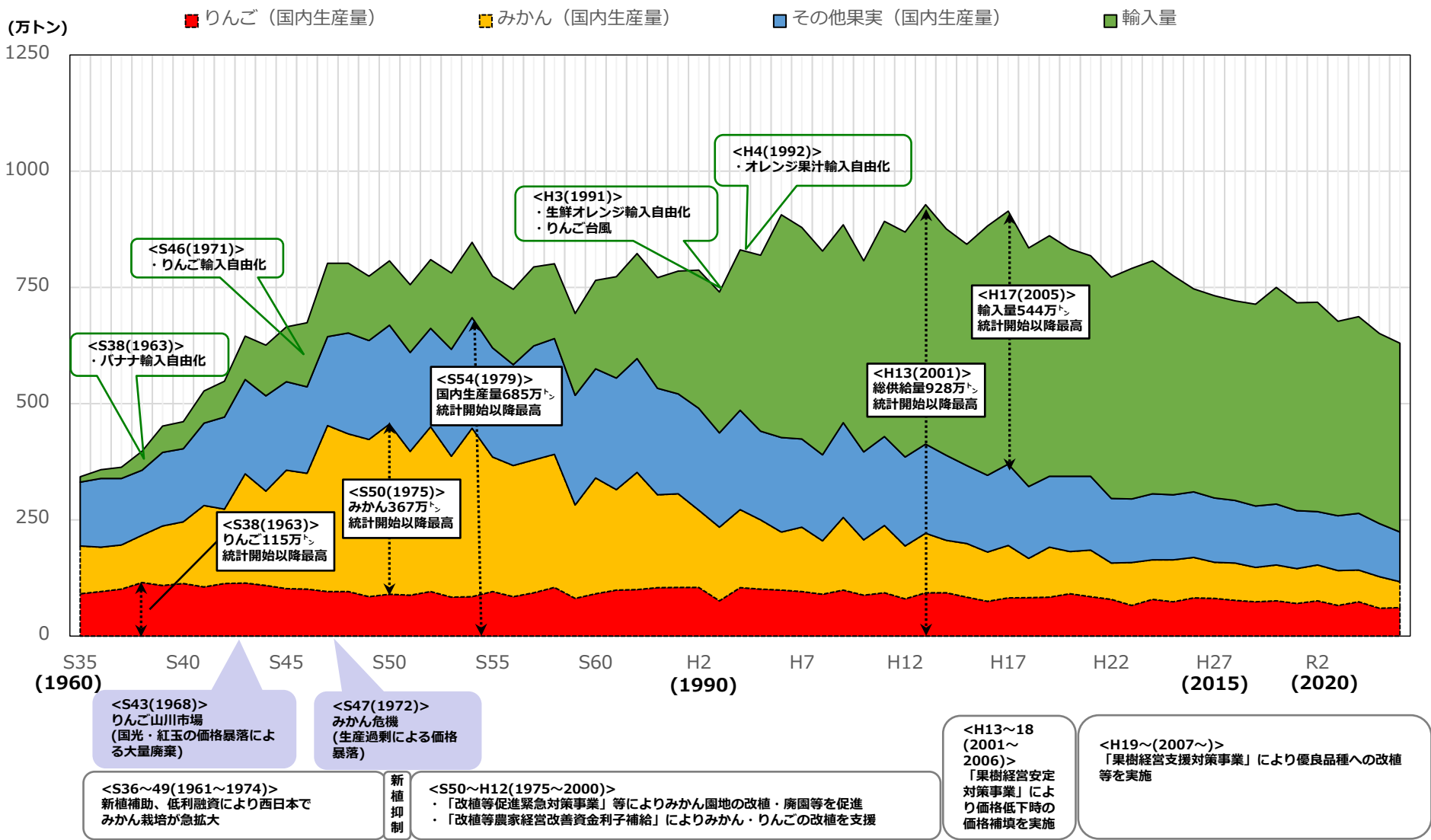
品 目	栽 培 面 積		生 産 量		生 産 額	
	(ha)	順位	(t)	順位	(億円)	順位
ポンカン	1,387	16	18,284	15	38	20
はっさく	1,376	17	23,921	11	37	22
なつみかん	1,348	18	27,141	9	43	18
ブルーベリー	976	19	2,221	41	40	19
びわ	927	20	2,530	37	34	23
いちじく	812	21	9,891	23	69	15
たんかん	800	22	3,566	33	12	28
レモン	753	23	10,486	22	0	-
清見	696	24	12,009	20	0	-
パインアップル	598	25	7,420	24	18	27
ぎんなん	552	26	855	48	7	30
カボス	549	27	5,859	28	31	24
オリーブ	529	28	442	54	0	-
カワチバンカン （河内晩柑）	496	29	13,986	19	0	-
ヒノユタカ（肥の豊）	465	30	6,898	25	0	-

資料：耕地及び作付面積統計、果樹生産出荷統計、生産農業所得統計、特産果樹生産動態等調査

注：赤字は果樹農業振興特別措置法に基づく政令指定品目、青字は政令指定品目の「その他かんきつ」に含まれるもの。
生産額の「－」表記は、生産農業所得統計の調査対象外の品目。

果実の需給構造①（生産量、輸入量の推移）

- 果実の生産量は、戦後大きく増加し昭和54年にピークに達した後、現在に至るまで減少を続けている。
- 輸入は自由化に伴って段階的に増加傾向にあったが、近年は減少傾向となっている。

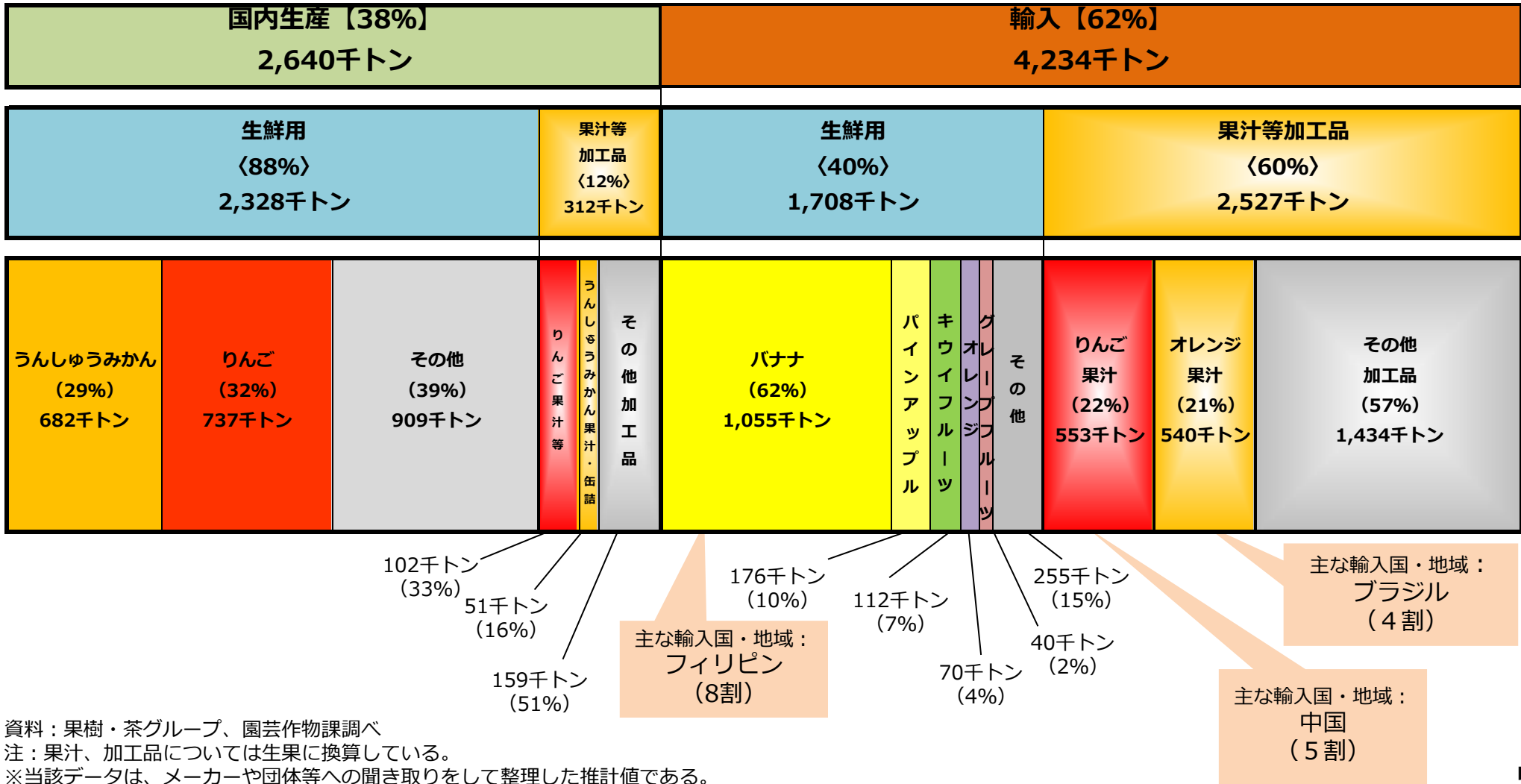


資料：農林水産省「食料需給表」

果実の需給構造②（国内生産、輸入の内訳）

- 果実の国内需要のうち、国産品は38%で、輸入品は62%である。
- 国内生産のうち88%は生鮮用である一方で、輸入品の60%は果汁等加工品である。
- 輸入の生鮮用のうち62%はバナナで、果汁等加工品のうち43%がオレンジ果汁とりんご果汁である。

○果実の需給構造（令和4年（推計））

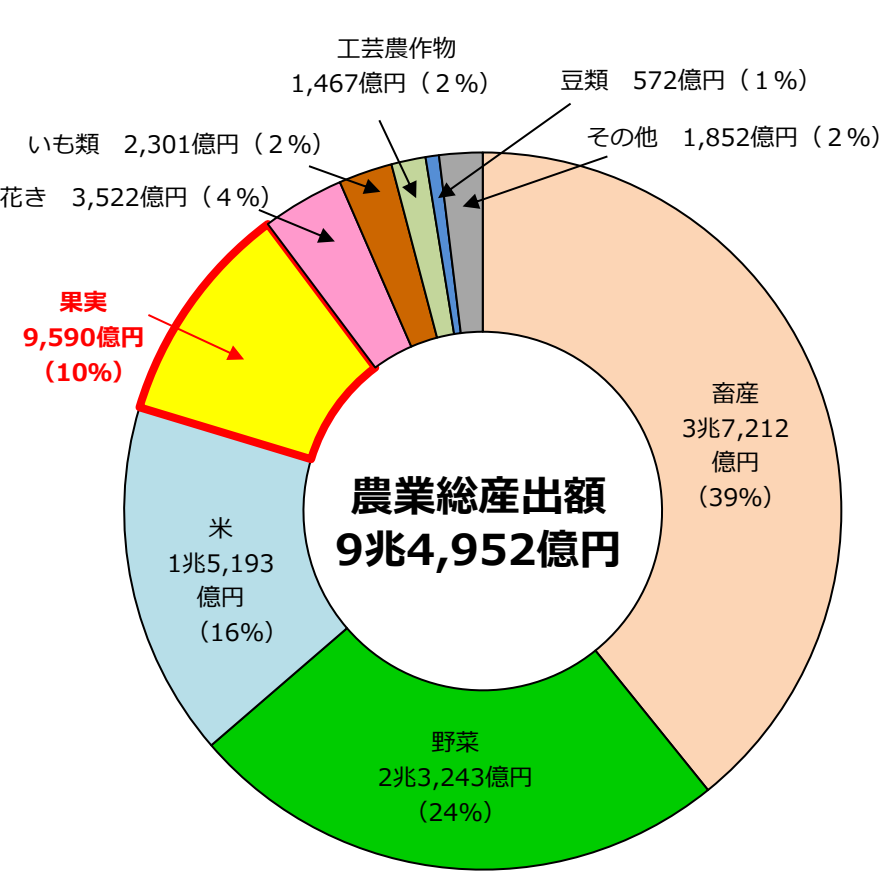


資料：果樹・茶グループ、園芸作物課調べ
注：果汁、加工品については生果に換算している。
※当該データは、メーカーや団体等への聞き取りをして整理した推計値である。

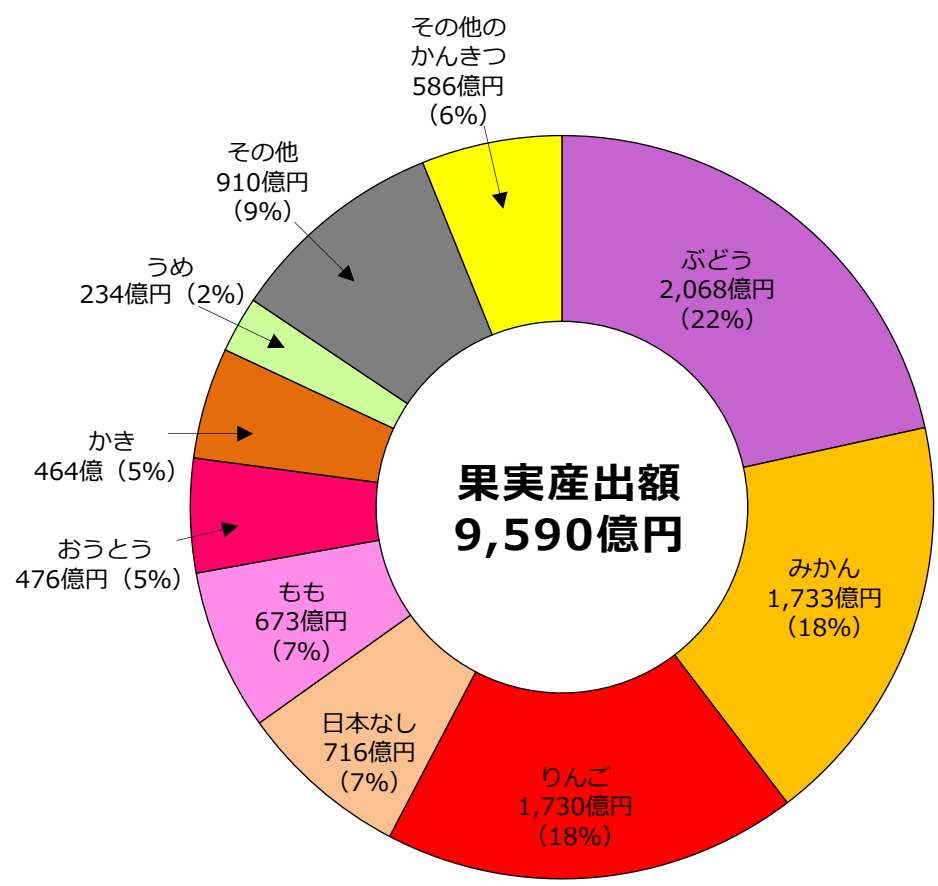
果樹の生産動向 ①（産出額）

○果実の産出額は9,590億円で、農業総産出額の1割を占めている。
○品目別では、ぶどう、うんしゅうみかん、りんごで果実産出額の過半を占めている。

○我が国の農業総産出額（令和5年）



○果実産出額の品目別割合（令和5年）

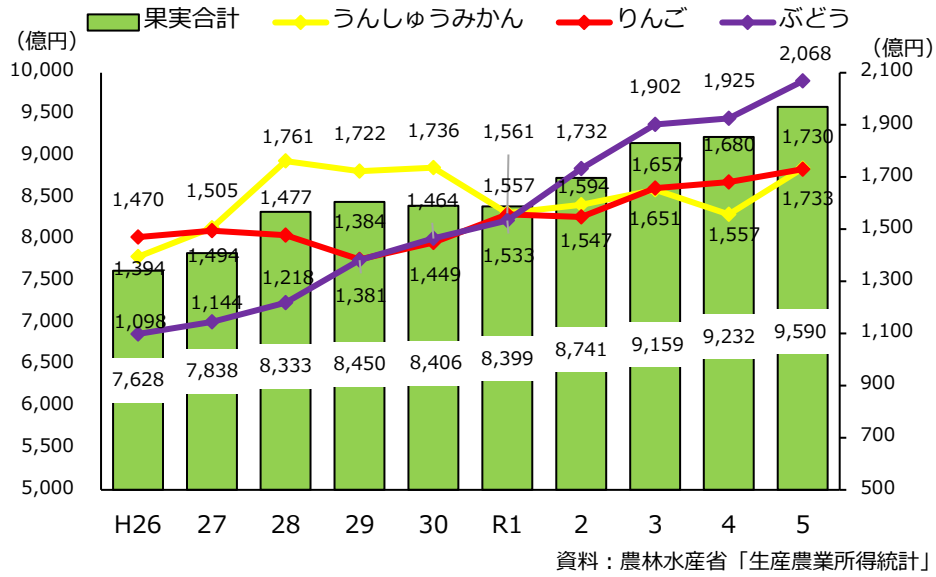


注1：果実産出額の品目別の値は、都道府県別の合計値である。
注2：その他のかんきつは、しらぬい（デコポン）、ゆず、ブンタン、ポンカン、なつみかん、いよかん、はっさく、日向夏、清見、カボス、きんかん、すだち、たんかん、ネーブルオレンジ、セミノールの産出額の合計値である

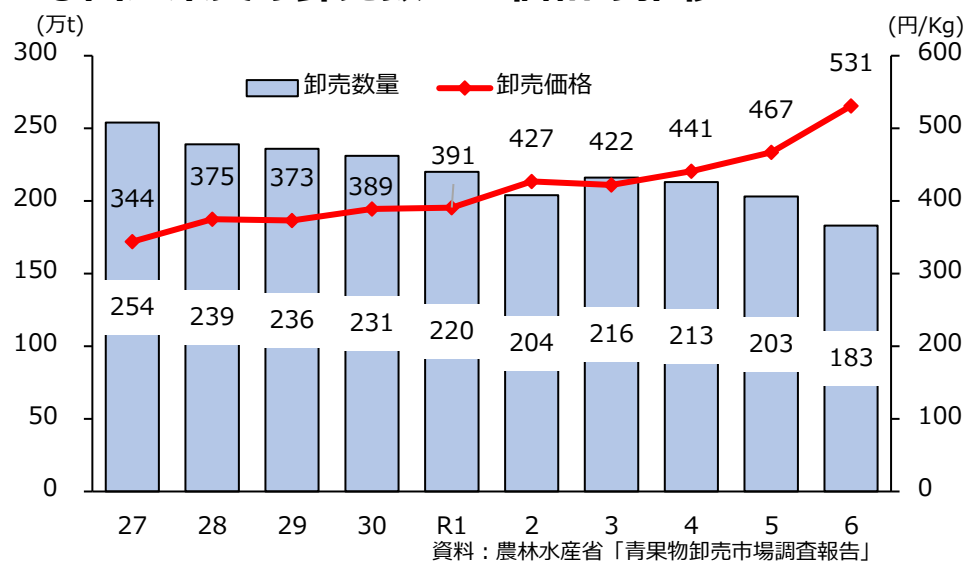
果樹の生産動向 ②（国産果実の需要）

- 近年の国内の果実の産出額は増加傾向である。
- 国産果実の卸売数量は減少傾向である中、卸売価格は上昇傾向で推移している。
- この背景として、①優良品種・品目への転換等により、消費者ニーズにあった高品質な国産果実が生産されるようになったことに加え、②人口減少等による需要の減少以上に生産量が減少していることが考えられる。

○国産果実の産出額の推移



○国産果実の卸売数量・価格の推移

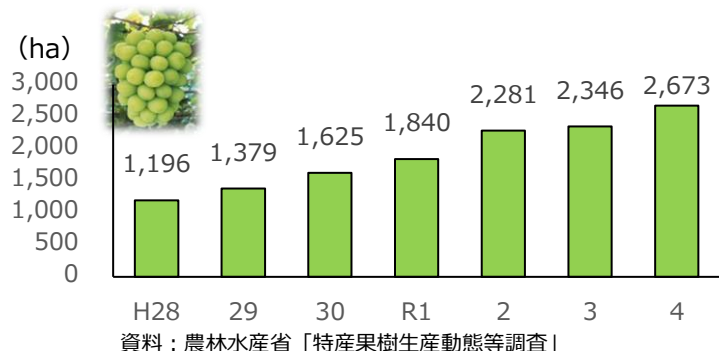


（参考）果樹経営支援対策事業等による優良品目・品種への転換面積

		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
転換面積 (ha)	年度	859	960	979	932	897	905
	累計	10,196	11,156	12,136	13,068	13,965	14,870

注1：転換面積とは、果樹経営支援対策事業等により、優良品目・品種への改植・新植・高接を実施した面積
2：累計は、果樹経営支援対策事業が開始された平成19年度以降に、改植・新植・高接を実施した面積の各年度時点までの合計

（参考）シャインマスカットの栽培面積の推移

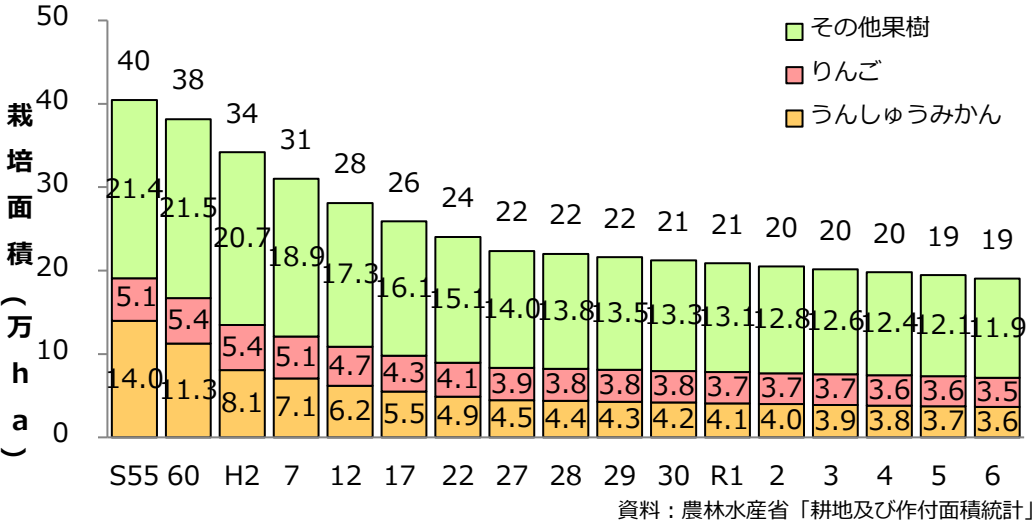


令和3、4年については調査対象が主産県のため、連続性はない

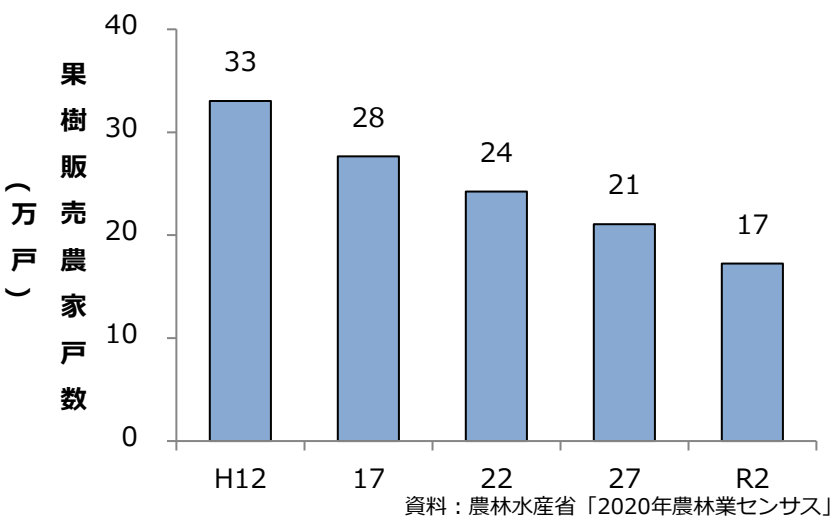
果樹の生産動向 ③（栽培面積、生産量、栽培農家数）

- 栽培面積や生産量は、近年、緩やかな減少傾向で推移。これは、高齢化が急速に進み、栽培農家数も減少傾向にあること等による。
- 果樹販売額のうち果樹部門における主業経営体の割合は、金額（農業粗収益）ベースで7割を占める。

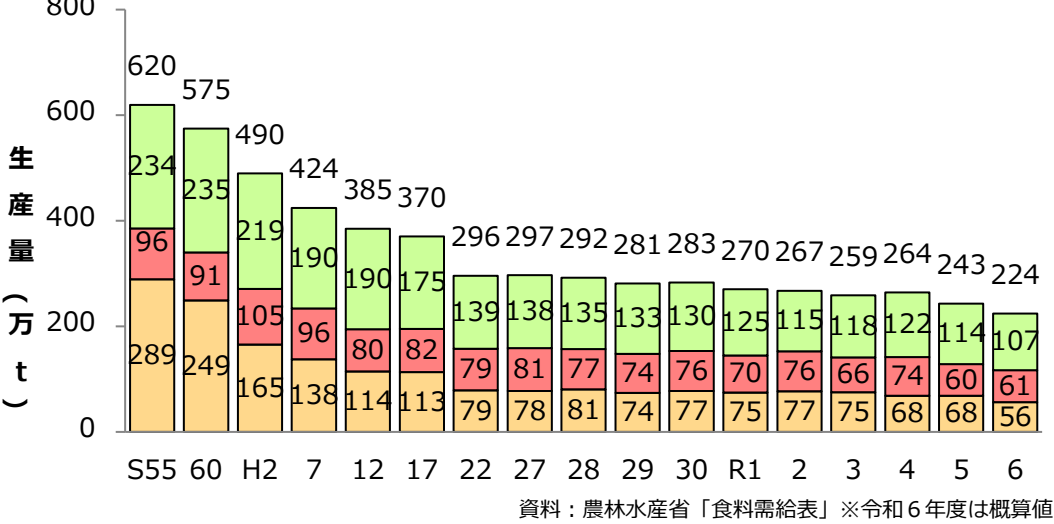
○果樹の栽培面積の推移



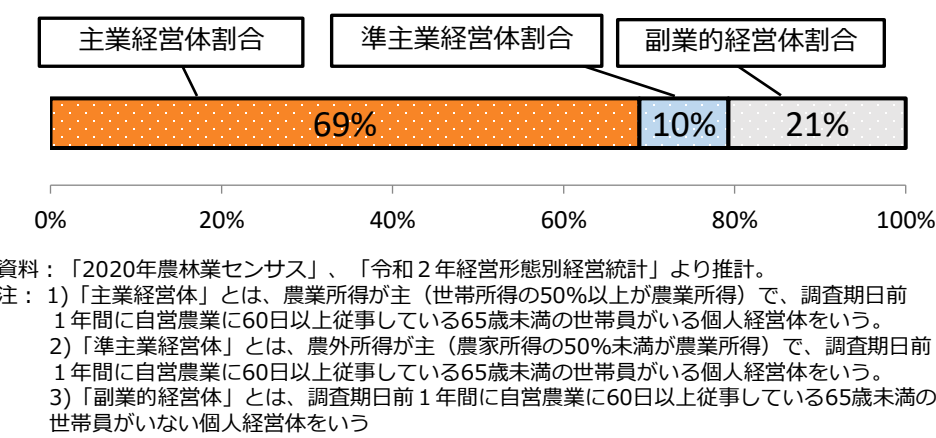
○果樹の栽培農家数の推移（販売農家）



○果樹の生産量の推移

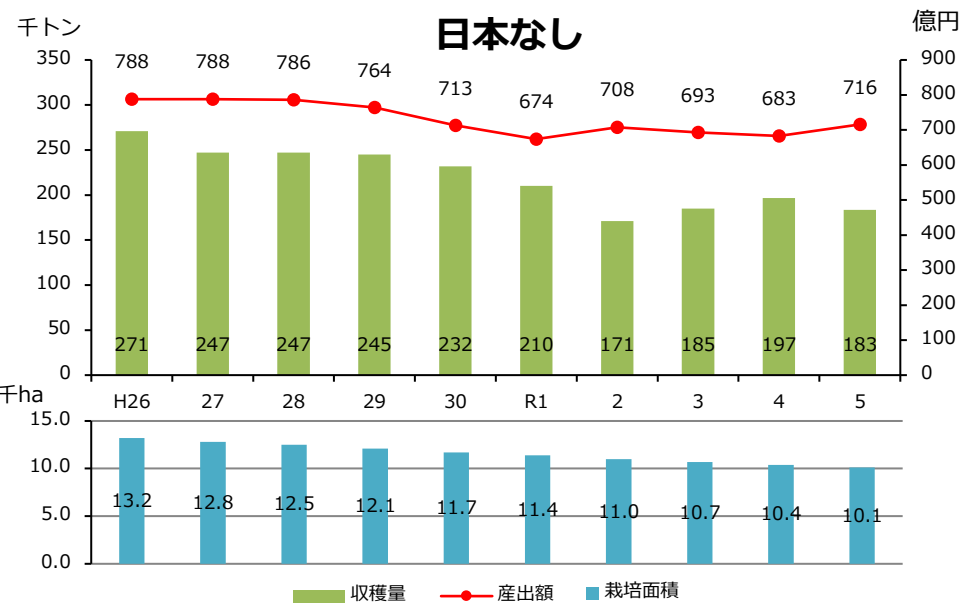
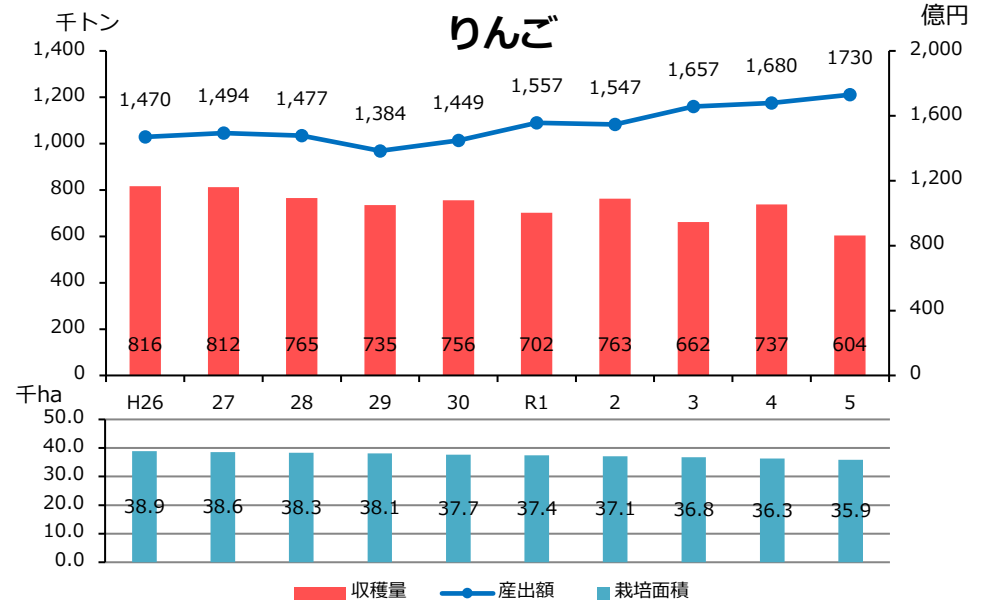
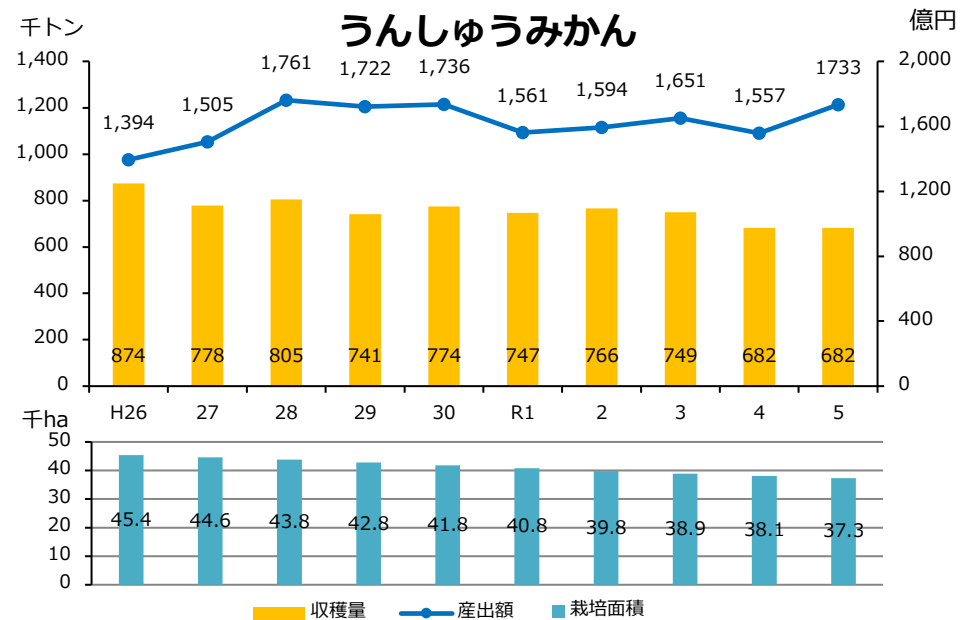
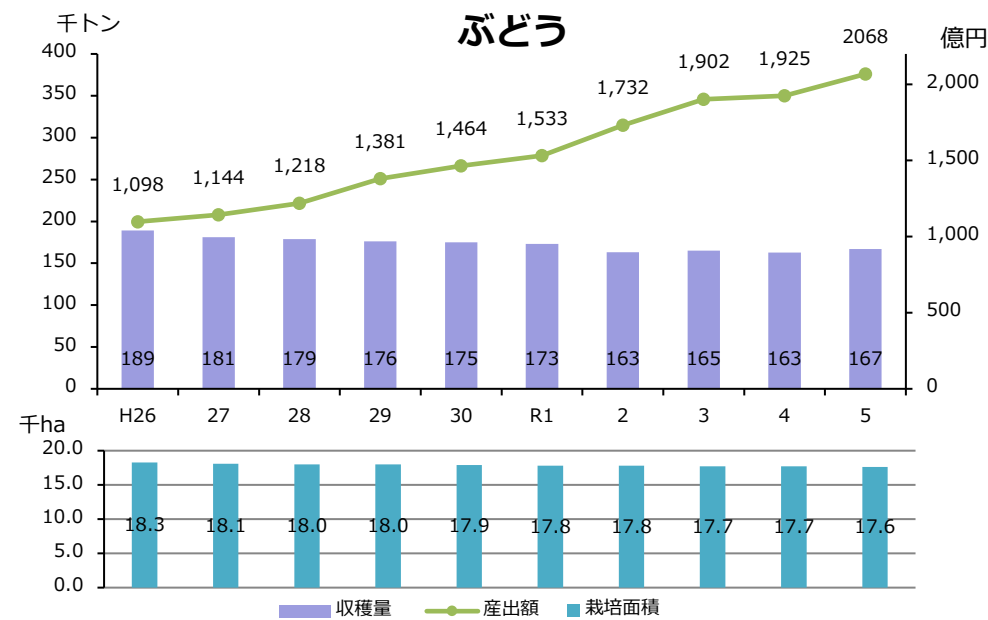


○果樹を販売した経営体の類型別シェア（農業粗収益ベース）



果樹の生産動向 ④（主要品目の生産量・産出額・作付面積）

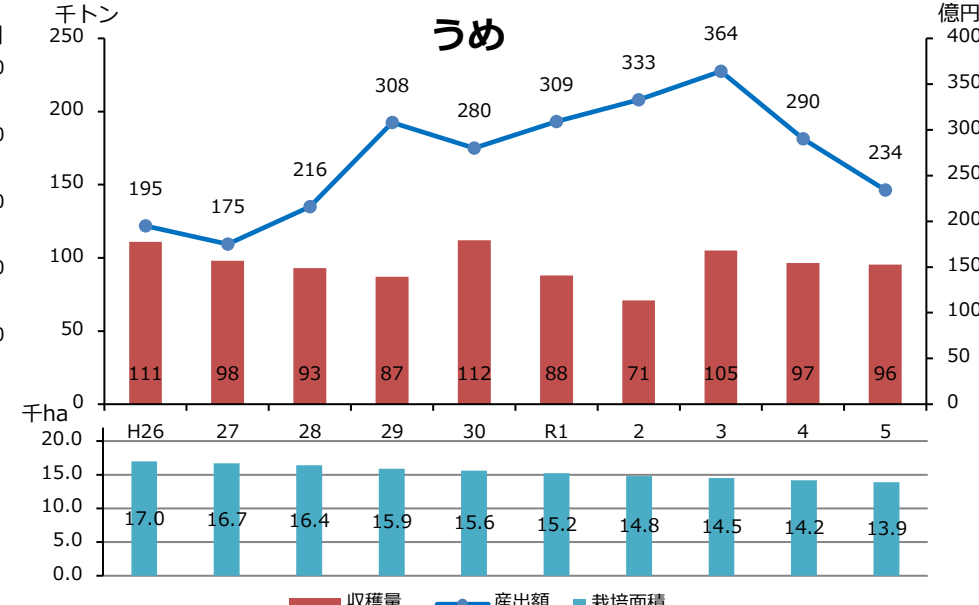
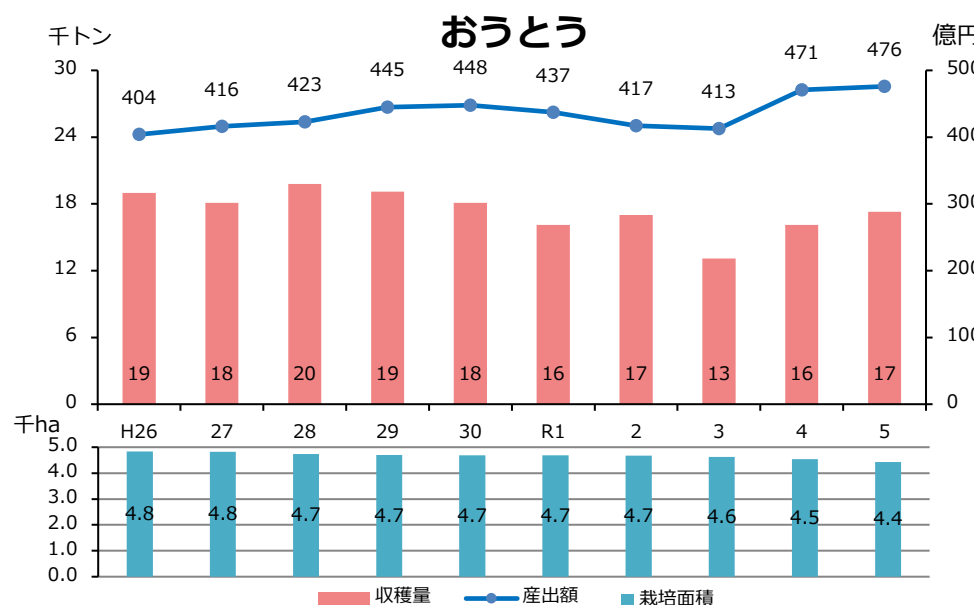
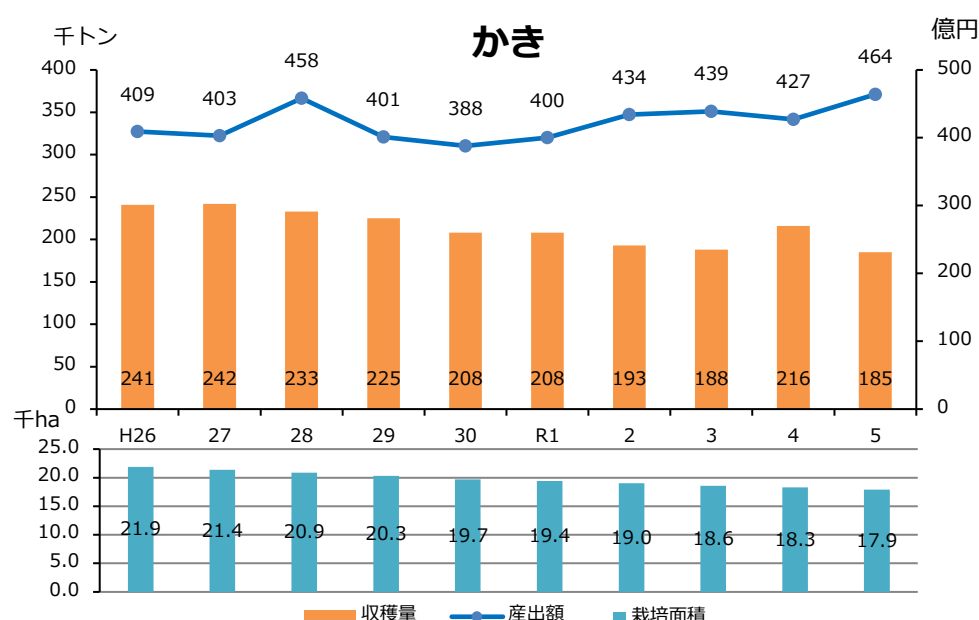
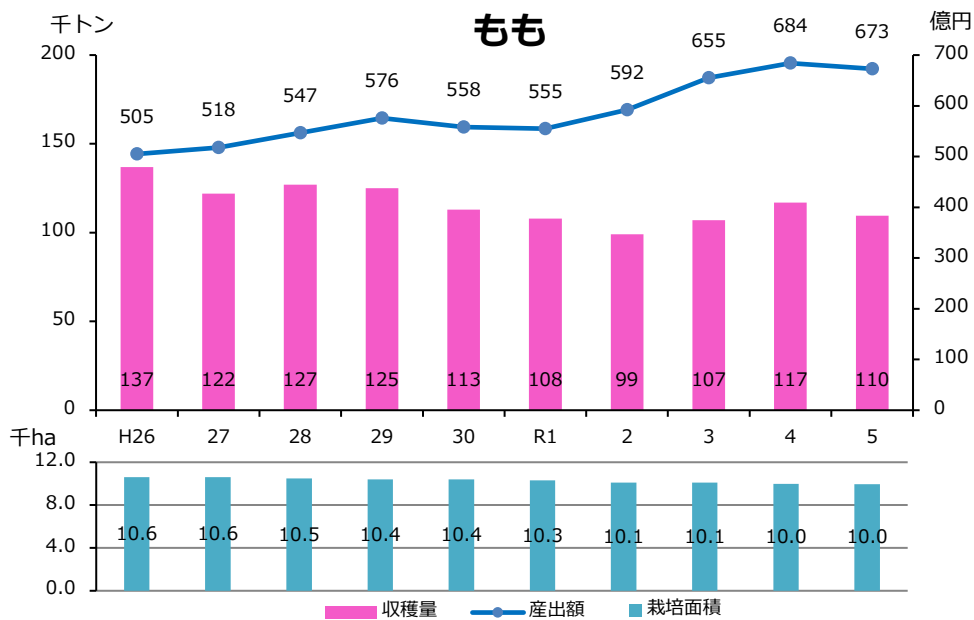
○果樹の主要品目ごとの生産量・産出額・作付面積の推移



資料：農林水産省「農林水産省耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」、「生産農業所得統計」

果樹の生産動向 ④（主要品目の生産量・産出額・作付面積）

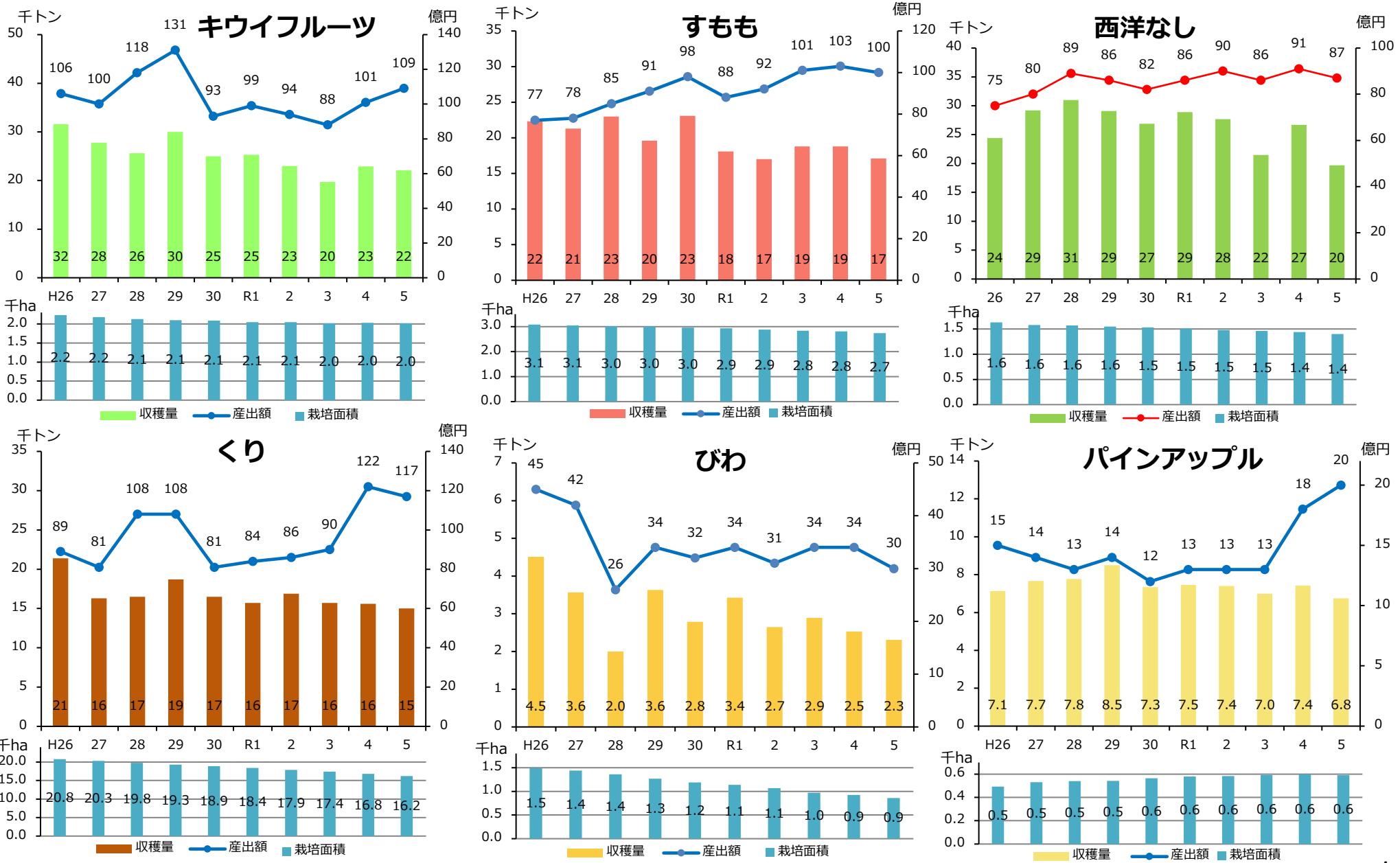
○果樹の主要品目ごとの生産量・産出額・作付面積の推移



資料：農林水産省「農林水産省耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」、「生産農業所得統計」

果樹の生産動向 ④（主要品目の生産量・産出額・作付面積）

○果樹の主要品目ごとの生産量・産出額・作付面積の推移

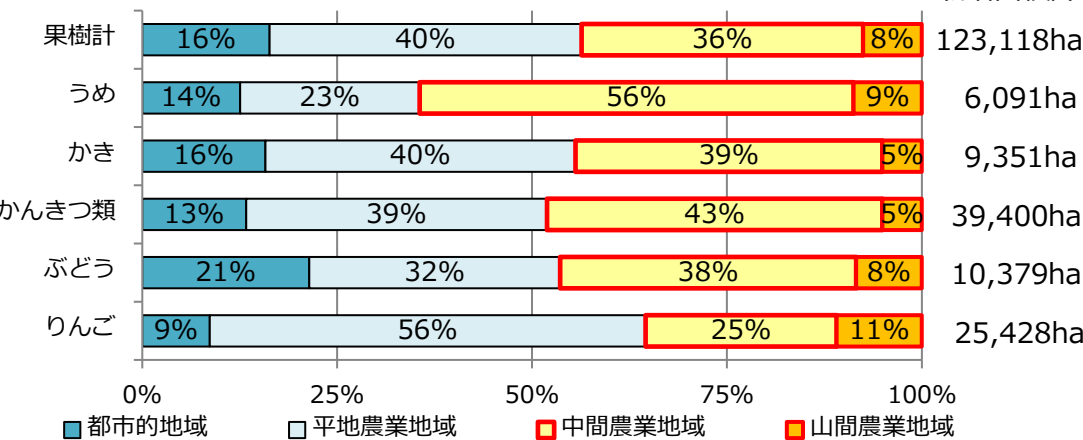


資料：農林水産省「農林水産省耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」、「生産農業所得統計」

果樹の生産動向 ⑤（中山間地域割合、耕作放棄地面積等）

- 果樹は、他の作物の栽培が困難な中山間地域での栽培が多く、こういった地域を中心に形成された主産地においては、果樹が農業産出額の多くを占める基幹品目となっている。
- 樹園地の耕作放棄地は平成27年で15,200haであり、耕作放棄地率は8.0%となっている。

○ 果樹の栽培面積に占める中山間地域の割合



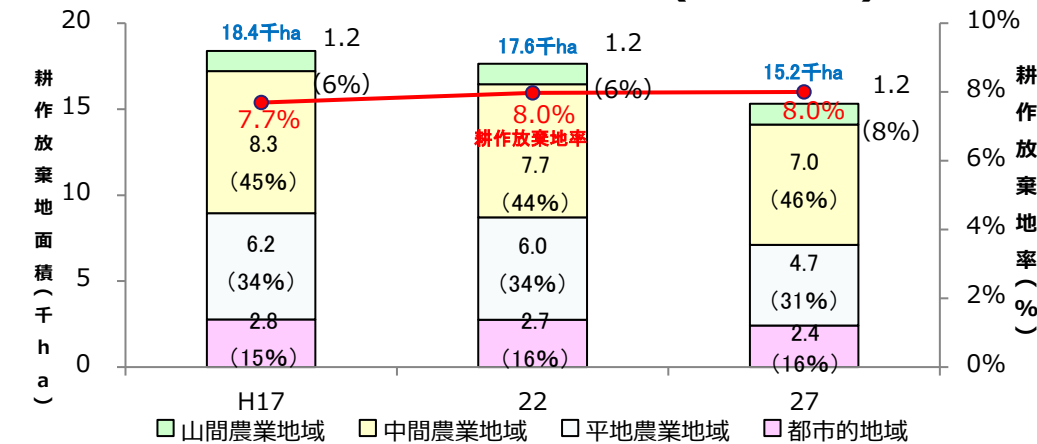
資料：農林水産省「2020年農林業センサス」
注：値は、農業地域類型別の露地栽培面積（販売目的で栽培した栽培面積）割合

○ 果樹主産地における基幹品目の農業産出額割合（令和5年）

基幹品目	主産地	農業産出額（億円）		基幹品目割合 (B)÷(A)
		合計 (A)	基幹品目 (B)	
うんしゅう みかん	浜松市（静岡）	546	166	30%
	有田川町（和歌山）	130	96	74%
ぶどう	笛吹市（山梨）	300	154	51%
	甲州市（山梨）	202	147	73%
りんご	弘前市（青森）	533	462	87%
	長野市（長野）	174	62	36%
なし	白井市（千葉県）	32	17	53%
もも	笛吹市（山梨）	300	106	35%
かき	五條市（奈良）	128	56	44%
おうとう	東根市（山形）	202	103	51%

資料：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

○ 樹園地の耕作放棄地面積の推移（販売農家）

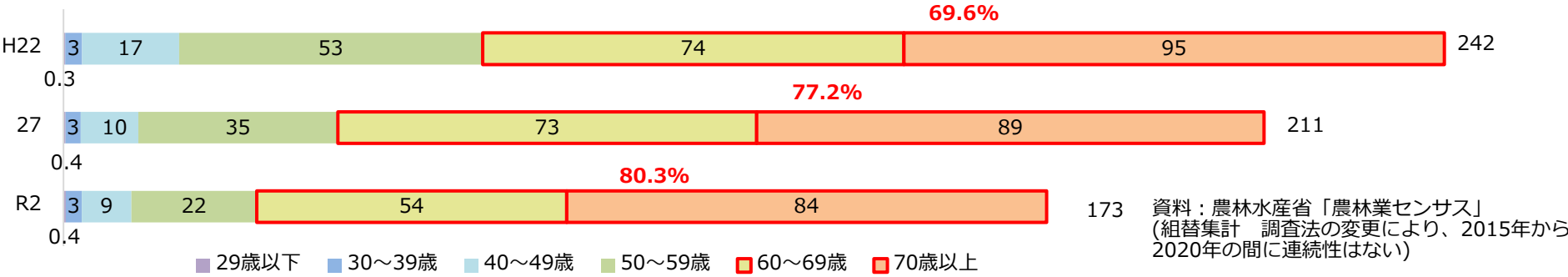


資料：農林水産省「農林業センサス」
注：1) () 内の数値は耕作放棄地面積の農業地域類型別割合。
2) 耕作放棄地率は、耕作放棄地面積÷(経営耕地面積+耕作放棄地面積)×100。
3) 本調査は2015年農林業センサスをもって廃止となった。

果樹の経営動向 ①（経営者年齢別果樹の栽培農家数、農業所得）

- 農家の減少と高齢化が急速に進み、果樹の栽培農家数は減少。令和2年には、経営者が60歳以上の割合は8割を超えた。
- 果樹作を主業として経営を営む経営体の平均農業所得は443万円。
- 各県が果樹農業振興計画において、「果樹園経営の指標」で目標農業所得が定められている。経営規模の拡大やわい化栽培、スピードスプレーヤーの導入等による労働時間の短縮が目指されている。

○ 経営者年齢別果樹の栽培農家数（販売農家）の割合



○ 果樹作主業経営における農業所得

経営耕地面積 (ha)	うち果樹 (ha)	自営農業労働時間 (時間)	粗収益 (万円)	経営費 (万円)	雇用	種苗	肥料	農薬衛生	動力光熱	荷造運転手数料	修繕費	減価償却	地代・賃借料	その他	農業所得 (万円)
1.9	1.5	4,648	1,329	886	97	9	47	82	84	219	42	86	14	206	443

資料：農林水産省「令和5年営農類型別経営統計」、注：労働時間、粗収益、経営費及び農業所得は、果樹以外の作物に係るものも含む

○ 果樹農業振興計画で定める「果樹園経営の指標」の農業所得

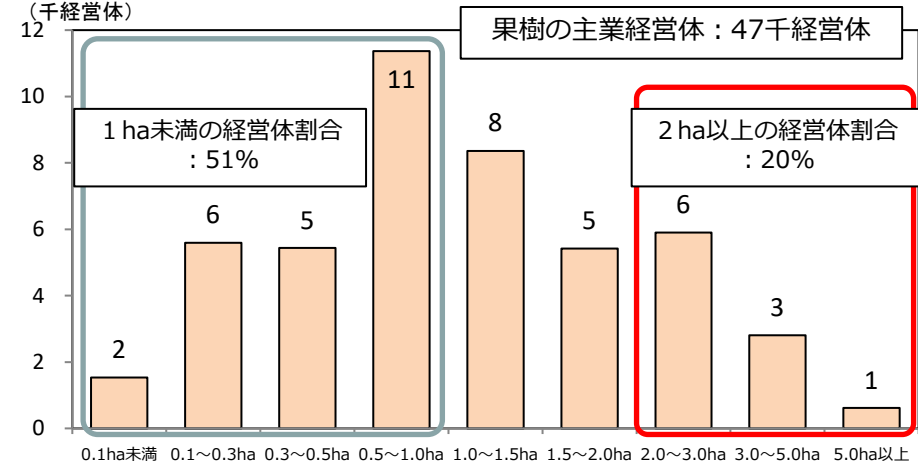
地域	経営類型	主な技術体系	経営規模	労働時間	粗収益	経営費	農業所得
和歌山	うんしゅうみかん専作	マルチ栽培、ジベレリン散布、樹冠上部全摘果	3.0ha	3,450時間	2,345万円	928万円	1,417万円
青森	りんご専作	わい化栽培	3.0ha	5,790時間	2,710万円	1,654万円	1,056万円
山梨	ぶどう専作	スピードスプレーヤー	1.1ha	3,034時間	1,371万円	618万円	734万円
長野	りんご+もも複合経営	スピードスプレーヤー、りんご新わい化栽培、訪花昆虫	1.7ha	3,166時間	2,356万円	1,571万円	785万円

資料：各県果樹農業振興計画（令和3年改定）より抜粋

果樹の経営動向 ②（経営規模、労働時間等）

- 果樹の主業経営体全体の20%程度は栽培面積 2 ha以上の農業経営体。一方、51%は栽培面積 1 ha未満。
- 果樹は、収穫等機械化が困難な作業や剪定など高度な技術が必要な作業が多く、労働集約型であり、水稲などと比べると主業農家の割合が高い。

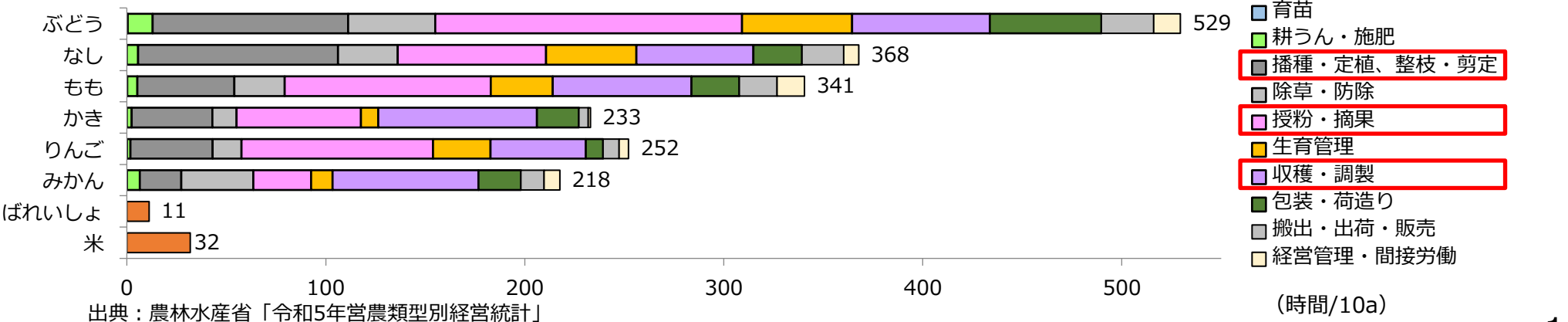
○ 果樹の主業経営体における果樹栽培面積規模別経営体数 ○ 果樹を販売した経営体における主業経営体割合



	主業経営体割合	主業経営体	準主業経営体	副業的経営体
果樹部門	31%	33,171	14,075	60,512
水稲部門	10%	44,821	85,176	339,817

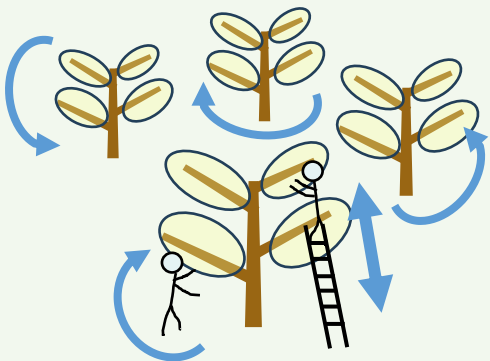
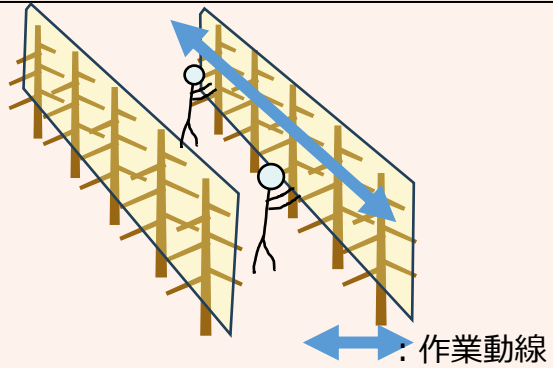
資料：農林水産省「2020年農林業センサス」
注：1)販売があった経営体のうち、主位部門の販売金額が8割以上の経営体のみを計上。
2)「主業経営体」とは、農業所得が主（世帯所得の50%以上が農業所得）で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。
3)「準主業経営体」とは、農外所得が主（農家所得の50%未満が農業所得）で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。
4)「副業的経営体」とは、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体をいう。

○ 主要果樹・ばれいしょ・米の作業部門別労働時間



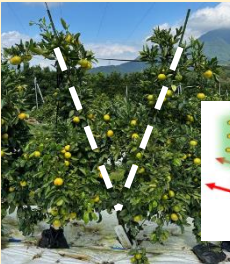
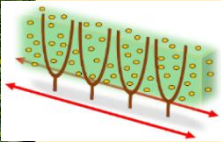
果樹の経営動向 ③（省力樹形の導入による省力化）

- 大きな木を疎植で園地内に散在させ、樹体 1 本単位で管理する**慣行樹形**では、**労働生産性が低く、機械化・スマート化には不適**。
- 小さな木を直線的に密植して配置し、樹列単位で管理する**省力樹形**では、作業動線が直線的となり、**労働生産性が高く、機械化・スマート化が容易**。

	慣行樹形	省力樹形
樹園地イメージ		
収量性	1樹当たりで収量が最大化	単位面積当たりで収量が最大化
植栽樹数	少ない	多い
成園化時期	遅い（約10年）	早い（約5年）
結実部位	立体的	平面的
労働生産性	低い（作業動線が立体的で非効率）	高い（作業動線が直線的で効率的）
技術の熟練度	整枝・せん定等に熟練技術が必要	整枝・せん定等の作業手順が明確化、初心者でも取り組み易い
機械化・スマート化	不適	適

果樹の経営動向 ④（果樹で開発された省力樹形の例）

- 主要な果樹品目について現場実装可能な省力樹形を概ね開発済みであり、改植・新植事業等により各産地への普及を推進中。
- りんごはトールスピンドル仕立てによる高密植わい化栽培が普及。
- うんしゅうみかん、かんきつは双幹形等の樹形が開発されている。

	りんご	うんしゅうみかん、かんきつ			
省力樹形の例	 【トールスピンドル仕立て】	 【双幹形】	 【密植双幹形】		
			(双幹形)	(密植双幹形)	
	面積当たり収量性（慣行比）	2倍以上	面積当たり収量性（慣行比）	同等	1.7倍
	面積当たり作業時間削減効果	同等	面積当たり作業時間削減効果	1.2割削減	2割増加
	収量当たり作業時間削減効果	5 割以上削減	収量当たり作業時間削減効果	1.2割削減	3割削減
普及面積（省力樹形全体、推計）	730ha		230ha		
普及上の課題	専用苗木の確保 面積当たりの開園費用が高い		適応可能な品種の拡大		